

ウドゥー

[日本語]

الوضوء

[اللغة اليابانية]

ムハンマド・ブン・イブラーヒーム・アッ=トゥワイジリー

محمد بن إبراهيم التويجري

翻訳者: サイード佐藤

ترجمة: سعيد ساتو

校閲者: ファーティマ佐藤

مراجعة: فاطمة ساتو

海外ダアワ啓発援助オフィス組織 (リヤド市ラブワ地区)

المكتب التعاوني للدعوة وتوعية الجاليات بالربوة بمدينة الرياض

1428 - 2007

islamhouse.com

4-ウドゥー

- **ウドゥーとは：**法的に決められた形に従って、清浄な水を用いて4つの器官を洗浄することです。

- **ウドゥーの徳：**

アブー・フライラ（彼にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）はファジュル（夜明け前）のサラール（礼拝）の時、ビラールにこう言いました：「ビラールよ、あなたがイスラームにおいて最も（アッラーからの報奨を）望んで行った行いを教えてくれ。実に私は天国で、私の前を行くあなたの足音を聞いたのだが。」（ビラールは）言いました：「私は夜でも昼でもウドゥーをした際には、その清浄な状態の内に自らに定められたサラールを行いました。それ以外に私がイスラームにおいて最も（アッラーからの報奨を）望んで行った行いはありません。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹）

- **ニーヤ（意図）の重要性：**

ニーヤは行いが正しく有効なものとなり、それが受け入れられ、かつ報奨の対象となるための1条件です。そしてそれを行う場所は心の中であり、全ての行いにはニーヤが付随します。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「実にいかなる行いもニーヤが付随しないことはない。そして人は、ニーヤしたところのものを得るのである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承²）

- **イスラームにおけるニーヤとは：**至高のアッラーゆえに、あるイバーダ（崇拜行為）を行うと決心することです。ニーヤには2種類あります：

1-行為に対するニーヤ：ウドゥーやグスル³、サラールなどを行うと決心することを指します。

2-行為の対象に対するニーヤ：対象とは、偉大かつ荘厳なるアッラーのことです。つまり至高のアッラーのみを望んでウドゥーし、グスルし、サラールすることを意図することです。これは1番目のものよりも重要です。

¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（1149）、サヒーフ・ムスリム（2458）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

² サヒーフ・アル＝ブハーリー（1）、サヒーフ・ムスリム（1907）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

³ 訳者注：「7. グスル」の項を参照のこと。

- 行いが受け入れられるための2つの条件とは：①その行いを至高のアッラーのためだけに真摯に行うこと、②それをアッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）が行ったように行うこと、です。

- イフラス（真摯さ）の意味：

イフラスとは、しもべの行いが被造物に対する意識からアッラーだけのためのもへと純化されることにより、その内面と外面においてバランスがとれることです。そしてイフラスに忠実であることは、しもべの内面が外面よりも成熟することを意味します。イフラスを身につければ、主はしもべにお目をかけ、その心を活気付け、かれの方へとお引き寄せになられるでしょう。また主は彼を服従行為へと傾かせ、反逆行為からは遠ざけて下さるでしょう。一方イフラスを欠く心はそうではなく、時には権欲、また時には金銭などの要求や愛情や欲望にとらわれています。

- ウドゥーのファルド⁴は以下の6つです：

顔を洗うこと：うがいや鼻の洗浄も含まれます。

肘から指先まで、両腕を洗うこと。

頭部を濡れた手で撫でること。両耳も拭きます。

両足をくるぶしまで洗うこと。

上記の順番通りに行うこと。

上記のことを途中で長く間を置いたりせず、連続して行うこと。

- ウドゥーのスナ⁵：

スィワーク⁶。初めに両手を3回洗うこと。顔を洗う前に、うがいと鼻の洗浄をすること。ひげが沢山ある場合、その間にきちんと水を通すこと。各部位の洗浄において右側から始めること。各部位を2回3回と繰り返し洗うこと。ウドゥーの後にドゥアー（祈願）すること。ウドゥー後に2ラクアのサラアをすること。

- ウドゥーに使用する水の量：

体の各部位を洗浄する際、同じ部位を3回以上洗わないことがスナです。また1ムッド⁷の水で1回のウドゥーを済ませ、水を無駄遣いしないこともスナです。ウドゥーにおいて水を無駄遣いすることは法の違反であると言えます。

⁴ 訳者注：あるイバーダ（崇拜行為）において欠かすことの出来ない構成要素で、その内のどれかが欠かするとその行い自体が無効となるようなことです。

⁵ 訳者注：預言者ムハンマド（彼にアッラーの祝福と平安あれ）の示した手法や道のこと。ムスリムは可能な限り、彼のスナを踏襲するべきであるとされています。

⁶ 訳者注：歯磨き用に用いる、ある特定の種類の小枝のこと。

⁷ 訳者注：ムッドは両手一杯に相当する量（およそ688ml）を指し、1サーアの4分の1にあたります。

- 眠りから目覚めた者で、容器を用いてウドゥーする場合は、その前に両手を3回洗わなければなりません。預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：「眠りから覚め（てウドゥーをしようと思っ）たら、両手を3回洗うまでは容器の中に手を入れてはいけない。というのも彼は寝ている間、その手がどこにあったかを知らないからである。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁸）

- **一番簡単なウドゥーの形：**

まずウドゥーをするニーヤを立て、うがいをし、鼻を洗淨します。そして顔を洗い、指の先から肘を含む両腕を洗います。それから頭部と両耳を濡れた両手で拭き、両足をくるぶしまで洗います。各部位につき1度ずつ洗淨し、水を満遍なく行き渡らせます。指の間もきちんと洗います。

- **完全なウドゥーの形：**

まずウドゥーをするニーヤを立て、両手を3回洗い、片手を用いてうがいをし、鼻を洗淨します。その際、片手にすくった水の半分をうがいに、もう半分を鼻の洗淨に用いるようにし、それを3回繰り返します。そして顔を3回洗い、右腕を指先から肘まで3回、左腕も同様に3回洗います。それから濡れた両手で前頭部から後頭部へと1回撫で、そして今度は後頭部から前頭部へともう1回撫でます。そして両手の人差し指で両耳の内側を、親指で外側を拭きます。それから右足をくるぶしまで3回、同様に左足を3回洗います。そして後に示す預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のドゥアー（祈願）をもって祈願します。

- **預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）のウドゥーの形：**

ウスマーン（彼にアッラーのご満悦あれ）によって奴隷の身分から解放されたフムラーンによれば、ウスマーン・ブン・アッフアーン（彼にアッラーのご満悦あれ）が（水の入った）容器を持って来させ、両手に水をかけて3回洗い、それから右手を容器の中に入れてうがいをし、鼻を洗淨（水を吸い込んで、噴出すこと）し、顔を3回洗い、それから両手を肘まで3回洗い、頭を撫で、両足をくるぶしまで3回洗うのを見ました。そして彼（ウスマーン）はこう言いました：「アッラーの使徒（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はこう言いました：『この私のウドゥー（のやり方）でウドゥーをし、それから雑念にとらわれることなく2ラクアのサラアをする者は、それ以前に犯した彼の罪を赦されるであろう。』」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承⁹）

⁸ サヒーフ・アル＝ブハーリー（162）、サヒーフ・ムスリム（278）。文章はムスリムのもの。

⁹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（159）、サヒーフ・ムスリム（226）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

- 預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）はウドゥーにおいて体の各部位を1回ずつ、あるいは2回ずつ、あるいは3回ずつ洗浄したことが伝承の中で確認されており、それらは全てスンナです。そして最もよいのは、時にはこれ、また時にはこれ、といった風に多様性を持たせ、各スンナを常に新鮮な形に保っておくことです。

1ーイブン・アッバース（彼らにアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの平安と祝福あれ）は（各部位を）1回ずつ（洗いながら）ウドゥーしました。」（アル＝ブハーリーの伝承¹⁰）

2ーアブドッラー・ブン・ザイド（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は（各部位を）2回ずつ（洗いながら）ウドゥーしました。（アル＝ブハーリーの伝承¹¹）

- 人間の行いには2種類あります：

1つは：身体の右側と左側両方で行うことが可能なもの。それでもしその行いがウドゥーやグスル、衣服や靴の着用、モスクや家に入ることなどといった高等な物事であれば、体の右側を優先させます。そしてその逆に、モスクから出る時や靴を脱ぐ時、あるいはトイレに入る際などには、体の左側を優先させるのです。

もう1つは：身体の右側、あるいは左側どちらか片方でしか出来ないもの。例えば飲食や握手、物の受け渡しなど高貴な物事については、右手で行います。そしてその逆にイスティジュマール（石や紙などによって、排泄器官から出た物質を除去すること）や性器に触れたり、鼻をかんだりする際には、左手を用いるのです。

アーイシャ（彼女にアッラーのご満悦あれ）は言いました：「預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は靴を履いたり、髪を櫛で梳かしたり、体を洗浄することやその他全てのことにおいて、右側から始めることを好みました。」（アル＝ブハーリーとムスリムの伝承¹²）

- ウドゥーを終えた後のドゥアー（祈願）：

1ーウマル・ブン・アル＝ハッターブ（彼にアッラーのご満悦あれ）によれば、預言者（彼にアッラーからの祝福と平安あれ）は言いました：「ウドゥーをし、“アシュハド・アッラー・イラーハ・イッラッラーフ・ワフダフ・ラー・シャリーカ・ラフ、ワ・アシュハド・アンナ・ムハンマダッラースールッラー（私は、いかなる共同者も有さないアッラーの他に真に崇拜すべきものはなく、ムハンマドはそのアッラーの使徒であることを証言する）”と

¹⁰ サヒーフ・アル＝ブハーリー（157）。

¹¹ サヒーフ・アル＝ブハーリー（158）。

¹² サヒーフ・アル＝ブハーリー（168）、サヒーフ・ムスリム（268）。文章はアル＝ブハーリーのもの。

言う者には8つの天国の扉が開け放たれ、その内の望むいかなる所からでも入ることが出来るであろう。」(ムスリムの伝承¹³)

2-アブー・サイード(彼にアッラーのご満悦あれ)は言いました:「アッラーの使徒(彼にアッラーからの平安と祝福あれ)は言いました:“ウドゥーをし、「アッラーよ、その賛美と共にあなたの栄光を称えます。あなた以外に真に崇拝するに値するいかなるものもありません。私はあなたに罪の赦しを乞い、悔悟します」と言う者には、(善行の)巻物にそれが記録され、そしてそれは封印されて審判の日まで損なわれることはないであろう。”」(アン=ナサーイーとアッ=タバラーニーの伝承¹⁴)

- ウドゥーをした後に、陰部に水を振りかけても問題はありません。また濡れた体の部位を布や紙などで拭くことも出来ます。

¹³ サヒーフ・ムスリム (234)。

¹⁴ 真正な伝承。アン=ナサーイーの「アマル・アル=ヤウム・ワ・アッ=ライラ」(81)、アッ=タバラーニーの「アル=アウサト」(1478)。アッ=スィルスィラト・アッ=サヒーハ (2333) 参照。